

住所 〒640-8269 和歌山市小松原通り1-3 電話 073-423-2300 FAX 073-423-4000
 E-mail tsuki423@oregano.ocn.ne.jp
 ホームページ http://www4.ocn.ne.jp/~tsuki-hp/ (-はキ-ホ-トの@の上の^をshiftで変換)

今月の小児科診察予定

3月15日(土)は保健所勤務のため13時から16時までは休診です
 3月21日(春分の日)は9-12時において診察をおこないます
 3月4日(火)、18日(火)は午後から大学診察のため時間外対応できません

連載！赤ちゃんの処置

体格
体重

検診などで体重が軽い、と指摘されることがあります。体重については軽いことがすべて悪いことではないのですが、増加率が問題で2週間後や1ヶ月後に再び受診してもらってその間の体重の増加をみて判断します。増加率が悪い場合は母乳やミルクの量が不足していたり、病気が隠れていたりする場合があります。注意が必要です。赤ちゃんを何度も検診につれていくことは大変ですが必ずチェックしてもらいましょう

身長

身長についても低身長が指摘されることがありますが、極端な場合を除き体重ほど気にする必要はありません。伸びる時期の個人差が大きいからです。ただし3歳をこえても低身長が目立つ場合は検査が必要です

豆乳

頭囲は成長をみる上で大変重要なものです。検診時に、頭が小さい、または大きいと指摘された場合は必ず定期的な経過観察や検査を受ける必要があります

バックナンバー

申し出ただければカラーコピーを差し上げています

特集	感染症豆知識	赤ちゃんの処置
第1号 インフルエンザ予防接種		
第2号 発熱時処置		
第3号 熱性痙攣		
第4号 吐き下し		
第5号 インフルエンザ		
第6号 喘鳴		
第7号 喘息の予防		
第8号 タバコを食べた		鼻づまり
第9号 頭をうった	麻疹	便秘
第10号 小児の皮膚疾患	水痘	赤ちゃんの発熱
第11号 夏のスキンケア	手足口病	湿疹
第12号 アトピー性皮膚炎(前編)	溶連菌感染症	夜泣き
第13号 アトピー性皮膚炎(後編)	おたふくかぜ	吐く
第14号 おっぱい	百日咳	かんしゃくもち
第15号 熱の頻度と対策	突発性発疹症	あおむけ寝とうつぶせ寝
第16号 インフルエンザの診断と薬	ロタウイルス腸炎	赤ちゃんの予防接種
第17号 インフルエンザの合併症	風疹	室温と体温
第18号 花粉対策	リンゴ病	でべそ
第19号 おしっこ異常	アデノウイルス感染症	おちんちん
第20号 おしっこ異常	反復性耳下腺炎	便の色
第21号 扁桃腺炎とアデノイド	単純ヘルペス感染症	母斑(あざ)
第22号 夏かぜ	クループ症候群	離乳食とフォローアップミルク
第23号 虫さされと蕁麻疹	水いぼ	おむつかぶれ
第24号 月山病院ができないこと	境界領域	
第25号 中耳炎	中耳炎	肥満
第26号 インフルエンザの予防接種	鼻汁 鼻出血 副鼻腔炎	お乳が大きくなった
第27号 虫垂炎	虫垂炎	SIDSってなに?
第28号 12月の感染症	結膜炎	
第29号 インフルエンザ 最近の話題		
第30号 脱水		

連載、境界領域
チツク
 チツクというのは頭を振る、顔にしわをよせる、まばたきをする、顔をしかめる、口をまげる、鼻をフンフンならす、肩や手足をピクッと動かす、おもわず声をだすなどの動作を繰り返すことをいいます。けっしてわざとやっているわけではありません
どんな子に多いの？
 小学校低学年までにみられることが多いのですが、感じやすく傷つきやすい子に多いとされています
原因は？
 不安や心の重荷、緊張などがきっかけでおこることが多く、入園や入学など不安が増大する時に多く見られます
治療は？
 ほとんどの場合は2週間から1年以内に自然に治ります
家庭内や学校(幼稚園)では？
 チツクの症状を怒ったり辞めさせようとしてはいけません、辞めさせようとするといけいに負担となつて重症化していきます、あせらず無視するのがよいとされています、保護者からすると少しつらいでしょうが「無干渉の努力」をしてください、これは学校や幼稚園でも同様で幼稚園や学校の先生に指摘されても本人には無干渉でいてくれるように頼んで下さい、ただ、幼稚園や学校での行動については聞いておくことが重要で、症状が長引く時には改善させるためのヒントが隠されているかもしれません
それでも改善しない場合は？
 半年以上も改善しない時や保護者の不安が強い場合、医師に相談してみして下さい



今月の顔
 慧君、凜ちゃんは
 ちよっとお疲れかな

連載：今月はこんな月
 3月はこんな月

3月はインフルエンザ感染症が残るものの徐々に減少していき、春休みにはいると感染症は非常に少なくなります、かわって増加してくるのがアレルギー性疾患で、花粉症はもちろんのことですが、喘息のかたも一年のうちで症状が悪化する時期にあたります、また入園や入学が近づくため緊張が強くなって、いろんな心の反応もでやすくなります

インフルエンザの流行状況(3月上旬)

3月1日現在、和歌山市では学級閉鎖も減少傾向で患者数は明らかに減少しています、局所的単発的な流行はあるものの終息に向かっているようで、もうしばらくの辛抱と思われれます、現在流行しているのはインフルエンザB型でありこの型は本年流行したA香港型より合併症(脳炎や脳症など)が少ないと言われており、成人においてはお薬を内服しなくても症状が改善することがほとんどです

月山病院小児科では子供達に有益な情報をお知らせするために月一回院内報を発行しております